



バリ島コーヒーの歴史

バリ島コーヒーの歴史は古く、1665年（日本は江戸時代初期）イエメンよりインドへ経て、1699年ジャワ島・バリ島などのオランダ領インド諸島に持ち込まれたアラビカ種ティピカ（原種に近い品種）は、エチオピア原産・モカに近いフルーティーな甘酸味で栽培されておりました。その後、1706年オランダの植物園で栽培され、1728年フランスを経てジャマイカ・ブルーマウンテン地区へ持ち込まれました。

バリ島アラビカ種ティピカは、ブルーマウンテンと同じティピカ種として、最高種でした。後に近年、インスタントコーヒー原料としての改良品種ロブスタ種が東南アジア全体に広がり、品質低下を招いたのです。

1995年、バリ島アラビカ種ティピカに出会いその味に魅了されました。その後、2005年に本格的にバリ島に入り、農園を巡りましたがロブスタ種とアラビカ種の交配種アラブスタが多く、味はスペシャルティティーとしては程遠いものでした。そののち、ティピカへの栽培を実施するため、行政府との連携の基、10年がかりでバリ州バンリ県キンタマーニ地区において完全アラビカ種ティピカとして生まれたのがバリジャラクコーヒーなのです。

バリジャラクコーヒーの由来

バリジャラクコーヒーの由来は、環境保護から始まったものです。

ブランド名JALAK（ジャラク）は、バリ島固有種の鳥「ジャラク・バリ」BALI Starling。まさしく、バリ島の象徴なのです。

世界的な環境保護団体BEGAWAN FOUNDATION（ベガワン基金）の基、「ジャラク・バリ」鳥保護拠点グリーンスクールを中心に、キンタマーニ地区の森林破壊、環境汚染などを厳しく管理する為に生まれたのがインドネシア共和国認証GI証明（公式産地証明書）です。「安心・安全・おいしい」コーヒー作りを管理しております。

その環境保護活動にNPO法人ジャラクエンタープライズは、バリジャラクコーヒーを通じて寄付活動で支援しております。

バリジャラクコーヒーは、NPO法人ジャラクエンタープライズ・(株)山東珈琲マーケティング・インドネシア政府・バリ州バンリ県・コーヒー農園関係者・ベガワン基金と一体となり自然リサイクル農法により生産されております。

バリジャラクコーヒーのロゴマークは、NPO法人ジャラクエンタープライズと(株)山東珈琲マーケティングだけに与えられた象徴マークなのです。